

京都総評



京都地方労働組合総評議会：発行

第251号

発行所
京都市中京区壬生仙念町30-2 ラポール京都5階
京都地方労働組合総評議会（京都総評）
電話 075 (801) 2308 FAX 075 (812) 4149
E-mail sohyo@labor.or.jp URL http://www.labor.or.jp/sohyo/
〈発行責任者〉 梶川 憲 〈編集責任者〉 吉岡 勝

京都労働相談センター

電話 0120-378-060 E-mail scent@labor.or.jp

主な日程

- 1月18日(月) 争議・労働法制宣伝
18:00 四条烏丸
- 1月19日(火) 「19の日」行動
18:30 京都市役所前
- 1月20日(水) 消費税・社会保障宣伝
18:00 四条烏丸

21春闘スタート

コロナ禍だからこそ 大幅賃上げ・底上げを! いのち・暮らしが 総選挙で変えよう!



建交労書記長
早田 武彦さん



JMITU委員長
山本 善五郎さん



福祉保育労書記次長
藤井 歩さん

新春旗びらきで梶川議長は、「コロナ禍で、労働者も中小事業者も大変な事態になっている。雇用や生業が続けられないという危機は、政治による人災ではないか。労働者・国民の手で、いのち・暮らしが本当に守られる政治に変えていく年にしよう」と呼びかけました。また、スタート宣伝では、「コロナ禍でも声をあげなければ、雇用や賃金も危うくなることを実感した昨年だった。労働組合に入って一緒に力を合わせよう。雇用を守り、賃上

いのち・暮らしを守る 政治に変える年に

新型コロナウイルスの感染拡大が止まらない中、新年を迎えました。京都総評は、1月5日に感染防止対策を取りながら新春旗びらきを行い、2021年の活動を開始。翌6日には、「新春スタート宣伝」を行って、21春闘勝利に向けたスタートをきりました。

コロナ禍だからこそ大幅賃上げ・底上げを求めてたたくとともに、総選挙で政治を変えて、いのち・暮らしが大切にされる社会をめざして、全力をあげましょう。

旗びらきであいさつする 梶川議長



「コロナ禍だからこそ、しっかり要求をかけた。78%にのぼることを紹介し、「コロナ禍だからこそ、しっかりと要求をかけた。たたかうとともに、労働者・中小企業を守る施策を国や自治体にもとめていく」と21春闘への決意を語り

「コロナ禍だからこそ、しっかり要求をかけた」

JMITUの山本委員長は、春闘アンケートの結果、年収がかなり減った・やや減ったが87%、生活が苦しい・やや苦しいが

2月末で特例が終われば雇用は守れない。特例をなくさず恒常的な制度にするよう求める。また、自治体が独自の支援策をとることを求めた。たたかうと訴えました。

建交労の早田書記長は、「雇用調整助成金の特例ですいぶん助かった。2月末で特例が終われば雇用は守れない。特例をなくさず恒常的な制度にするよう求める。また、自治体が独自の支援策をとることを求めた。たたかうと訴えました。」



春闘スタート宣伝

福祉労働者の待遇改善が急務

福祉保育労の藤井書記長は、「コロナ禍で必死にがんばっている福祉労働者の姿を紹介し、「福祉労働者は、他産業より月額10万円も賃金が低い。国民生活に欠かせないケアワークを担う福祉労働者の賃金・労働条件改善が急務だ」と訴えました。また、「自助」を



京都市職労委員長
永戸 有子さん



京教組委員長
河口 隆洋さん

「総選挙で変えていこう」と呼びかけました。京都市職労の永戸委員長は、「持続可能な行財政審議会」を設置し、くらしを支える福祉施策や市民サービスを切り捨てようとしている京都市政を批判、市職員の賃金力

京都府・京都市の「35人学級」を求め、国に責任を押しつけていく。この間の運動の到達を紹介し、「直ちに35人学級の実現、中学・高校での実現、そして、20人程度学級を求めていく」「防衛費より少ない教育予算という現状を変え、教育予算を増やし、国の責任で少人数学級を実現する政治へ転換していこう」と訴えました。

世論と運動で 35人学級実現へ

京都府・京都市の「35人学級」を求め、国に責任を押しつけていく。この間の運動の到達を紹介し、「直ちに35人学級の実現、中学・高校での実現、そして、20人程度学級を求めていく」「防衛費より少ない教育予算という現状を変え、教育予算を増やし、国の責任で少人数学級を実現する政治へ転換していこう」と訴えました。

単産・職場・地域で、要求討議をしっかりと行い、「全組合員参加」で21春闘をたたかきましょう。そして、来る総選挙で、労働者・国民の手で政治を変えていきたいと思います。

京都府・京都市 予算要請

いのちと暮らし、雇用と営業を守る 役割発揮を!

昨年12月22日に京都府、25日に京都市に対して、予算要請を行いました。

コロナ禍が地域の経済と雇用に深刻な打撃を与えており、こうした中で、労働者が暮らせる賃金と雇用を確保すること、それを保障する経営支援が急が

ています。京都府・京都市が、府市民の生活実態を踏まえて、いのちと暮らし、雇用と営業を守る役割を発揮することにも、国に予算の発動を要請するよう求めました。

重点として、「積極的な検査実施と医療提供体制の確保などの新



京都府への予算要請

型コロナ感染拡大防止対策」「雇用調整助成金の特例を恒常的な制度にする」ということや新型コロナウイルスに感染したり濃厚接触時に安心して休むための補償制度をつくることなどを国に求めること」「介護・福祉労働者の処遇改善のため独自の支援を行うこと」などを求め、各分野の実態と要求を突き付けて実現を迫りました。

TUBUYAKI

パソコンの電源が入らない!!こんな経験はありませんか?年賀状シーズン到来!家で据え置きで使っているノートパソコンの電源ボタンを押しますが反応なし!▼労働組合の活動などには軽量・小型で持ち歩けるモバイルノートを使っています。こちらはバックアップもつけています。家に据え置きの一台ほったらかし!▼さあどうするか?ちょっと考えてみるか?ちょっと考えてみるか?ちょっと考えてみるか?...

いのちと暮らしが大切にされる 新しい社会の実現めざし

「いのち署名」に取り組みよう

「コロナ禍で、医療・社会保障などの暮らしや「新自由主義」のひびが改めて浮き彫りになりました。社会のあり方を問い直し、いのちが大切にされる社会の実現めざして提起されたのが「いのち署名」です。各組織で積極的に取り組みましょう。

悲鳴をあげる労働者

「自分が感染して妻や

子どもにうつす事態を避けるため5月から病院の寮に入った。10月に自分以上も一緒に生活できない、何をしているのかわからなくなるなど、過労死手前の状態（大阪府職労「Writer」）。これは、医療や保健所などの労働者の悲鳴です。

医療や社会保障のもろさが明らかに

コロナ禍で、改めて日本の医療・社会保障、公共体制のもろさが明らかに



街頭で訴える医労連の仲間

「京都総評」が機関紙コンクールで佳作に



京都総評の機関紙「京都総評」が、機関紙協会京滋誌コンクールで、「佳作」を受賞しました。

不定期発行になっていたものを2018年9月から月一回の定期発行へ改善し、教宣部の体制を強化してよりよい紙面づくりをめざしてきました。

「優秀賞」や「最優秀賞」をめざしてがんばっていきます。京都総評・教宣部

福祉保育労が京都府労委に救済申立行う

京都市の不当労働行為(団交拒否)は許せない!

なりました。そして、こうした中で、「早ければ良い、安ければ良い」という価格競争や、「今だけ、金だけ、自分だけ」で良いのかという、社会のあり方そのものを問う声があがってきています。少人数学級実現をめざすたかひは、その新しい社会のあり方の象徴として

世論を動かしました。そして、その運動に続くのが、「いのち署名」です。国は、1980年代からの「医療費増大が国を滅ぼす」に基づき、医療費の国民負担増とその提供体制(病院や医療従事者など)の削減をすすめて、社会保障を破壊し続けて

新しい社会への一歩を

こうした社会保障削減の道から抜けだし、「何よりもいのちが大切にさ

きました。その結果、例えは日本の100床あたりの医師数は、イギリスの1/5、ドイツの1/3程度でしかありません。また、感染症対策でも、この20数年で全国の保健所数は、845カ所(1996年)から469カ所(2020年)までほぼ半減しました。さらに地域から病院を減らす「地域医療構想」もすすめられています。

「街頭で署名を集めたら、列をなして人が寄って来る」、「署名を封筒に入れて地域にポスティングしたら、次々と返信が来ている」と、署名に大きな注目が集まっています。「いのち署名」を、医療労働者や公務労働者だけの運動に留めず、人々のいのちと暮らしに関する課題と位置づけて、すべての単組・地域で署名を広げに広げて、新しい社会への一歩を踏み出しましょう。

学童保育・児童館職員は京都市が定めた「職員処遇実施要綱」で賃金・労働条件が規定され、労働条件の変更は、30年前から団体交渉で協議・合意してきました。しかし、昨年4月に、組合との協議もなく「要綱」の変更を通知したことに抗議すると、「労使関係にない」と発言し、労働組合法上の使用者として30年間重ねてきた団体交渉を拒否し続けています。

「要綱」の変更は、職員が働き続けられなくなる恐れがあり、低額の運営計画を提示した団体が



救済申立のあと記者会見する福祉保育労の役員

指定管理者に選定され、職員の劣悪な処遇が、子

福祉保育労は、団交拒否を続ける京都市の行為

どもや保護者の処遇低下になりかねません。京都市は、子どもたちのために、学童保育・児童館事業を発展させるためにも、職員の賃金や労働条件の向上に責任を持つべきです。

アイデアを持ち寄り 楽しい活動を大切に

伏見ふれあいユニオン (伏見地区労 個人加盟労組)



定期総会のあとの記念撮影

2021年1月現在195人の組合員が加盟しています。

組合員の職種、年代もさまざま、そのおかげで色々な知識やアイデアを持ち寄ってとても楽しい活動が出来ています。

特に「ふれあいティータム」は毎月発行している「ふれあいニュース」発行準備の後に食事をしながら運営しています。

その中で、年間延べ170人が申請するのが映画の補助です。半券で1回500円の補助が年6回受けられます。とても好評です!

このように様々なアイデアや交流の場を設けながら運営しています。

今後もコロナ禍に負けず、地域に根ざした活動と組織拡大に奮闘していきたいと思えます。

は不当労働行為だと、昨年12月23日に京都府労働委員会に救済申立を行いました。今後、保護者・市民とともにたたかっていきます。

労働組合の姿を地域に

地域ユニオンの活動

紹介しています。また本書は、事実から「桜」疑惑の重大性と本質をわかりやすく整理してくれまます。絶対こうやむやみにしてはなりません。大手メディアの「権力監視」機能が弱体化する中、しんぶん赤旗への期待はますます高まります。

「赤旗スクープは、こうして生まれた!」

「桜を見る会」疑惑

「しんぶん赤旗」は政労機関係紙ですが、大手各紙を差し置き、政権直撃の大スクープを連発するメディアとして、注目を集め、購読申込みも急増しているそう。その舞台裏を明らかにする本書。しかし、赤旗に特別なコネクションがあるわけでもなく、ネット上など

誰でも見られる情報の分析と、粘り強い裏付け取材によるもの。本書では「大手新聞の幹部」の自戒を込めた声として「桜を見る会」前夜祭の実態を大手メディアはみんな知っていた。しかし、「首相主催だからしかたない」とそれ以上の問題意識を持たなかった。「私物化」という視点がなかったからだ」と

「権力監視」機能が弱体化する中、しんぶん赤旗への期待はますます高まります。



名：赤旗スクープは、こうして生まれた! —「桜を見る会」疑惑
出版社：新日本出版社
著者名：しんぶん赤旗 日曜版編集部
定 価：1300円+税